

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092700059		
法人名	特定非営利活動法人ラポール		
事業所名	グループホーム朝日新明館		
所在地	東筑摩郡 朝日村 古見 1938		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成27年4月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成26年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所に関わる全ての方の希望や要望に応える事ができるように、日々事業所職員は努力し互いに切磋琢磨しながら自身の日々の仕事を見つめなおし、ラポールの意味「お互いの心が通じ合う関係、私にとって今一番幸せな状態」事業所理念「人と人とのつながりが笑顔の輪になる」よう皆様と日々学び、日々感じながら生活しております。朝日村の自然豊かな場所に事業所を構え4年目に入りました。朝日新明館前の池は季節の移り変わりを感じさせ、春には桜が咲き乱れ夏には小さな魚が生まれ生命の誕生を喜び、秋には紅葉、冬には池が凍り、また、春が来る、静かな環境でも、様々な景色を見せてくれます。また、入所者家族、地域の入所者の友人の方も多く来所され「また来て良いでしょうか?」と言われるように、職場、職員、利用者様の関係も良好で職場内の雰囲気も明るく活気ある事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム朝日新明館」は山間地にあり四季折々(春には山菜取りや花見、秋には栗拾いや紅葉狩り等)の自然や諸動物(猿、鹿、親子熊、小鳥等)と共生した自然満載の環境の中に設置されている。NPO法人ラポールを母体を持ち、法人グループとの連携に努め、より質の高いケアサービスの提供に向け努力をされている。旧旅館を改装しての事業所は大変広く利用者がゆったりと過ごせる使用となっており、利用者は穏やかで、伸び伸びと明るく過ごされている。職員は笑顔で迎え、居心地よく過ごせる雰囲気づくりに努めており、ご家族や友人、知人等の訪問者が多数来られ利用者は楽しみにされている。管理者は長い福祉現場経験を基に良好な事業所運営の実現や行政とともに課題解決に向け真摯に取り組まれている。なお、リーダーとともに職員間の連携を図り向上心につながるよう努めている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目		項目	
項目		取り組みの成果 該当するものに印		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
		2. 利用者の2/3くらいが			1. ほぼ全ての家族と
		3. 利用者の1/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			3. 家族の1/3くらいと
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
		2. 数日に1回程度ある			1. ほぼ毎日のように
		3. たまにある			2. 数日に1回程度
		4. ほとんどない			3. たまに
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
		2. 利用者の2/3くらいが			1. 大いに増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		4. ほとんどいない			3. あまり増えていない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
		2. 利用者の2/3くらいが			1. ほぼ全ての職員が
		3. 利用者の1/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		4. ほとんどいない			3. 職員の1/3くらいが
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
		2. 利用者の2/3くらいが			1. ほぼ全ての利用者が
		3. 利用者の1/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		4. ほとんどいない			3. 利用者の1/3くらいが
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
		2. 利用者の2/3くらいが			1. ほぼ全ての家族等が
		3. 利用者の1/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		4. ほとんどいない			3. 家族等の1/3くらいが
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			4. ほとんどできていない
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「人と人との繋がりが笑顔の輪になる」という事業所理念は皆様に見やすい玄関に掲げ、職員、管理者、事業所に関わる全ての者が目標を達成できるよう日々努める。</p>	<p>地域密着型サービスの果たすべき役割を反映した事業所独自の理念をつくりあげている。日々のミーティングで理念に基づき方針や目標を具体化した内容で伝え、職員間で共有してケアサービスの実践に活かされている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>陶芸や事業所及び地域行事、消防訓練を行い地域の方との交流を行っている。</p>	<p>事業所周辺の遊歩道に地域の方が散策に見え声掛けや地域行事(音楽会、運動会、文化祭、敬老会等)に参加の折に地域の方々と交流を図られている。なお中学生が年1回職場体験に訪問して利用者への支援に努めている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>本年度より開催されている、朝日村地区地域ケア会議への参加、中学校の職場体験学習の受け入れ、近くにある保育園園児との交流、また、同一法人内での「機能訓練についての研修」「介護技術研修」を毎月行っている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議にての「利用者様の現況」報告は今まで通り行っておりますが、消防署より職員の方にお越しいただき、推進委員の方と地域の中にあるGHとしての災害時の応援、訓練の合同化をしていくと共に、被災家庭の受け入れ等も視野に入れております。</p>	<p>運営推進会議にはご家族、区長、民生委員、包括支援センター、行政等が参加して3か月に1回の頻度で開催されている。入居者の現況報告や外部評価結果を提示して、評価から明らかになった課題について会議で報告し、モニター役となっていただいている。</p>	<p>推進会議は地域の理解と支援を得るための貴重な機会であり、幅広い立場の方々(保育園、小・中学校等)に声掛けをし参加して頂き、様々な角度からの地域の声を聴かせていただき、事業所の更なる改善につながるよう期待する。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>「事業所の力を活かした地域貢献」のところにも記載いたしましたが本年度より「朝日村地域ケア会議」を朝日村地域包括にて開催しております。出席に当たり、事業所の行事等の連絡、ラポールにて行っている各研修にも他事業所に参加して頂けるよう呼びかけています。</p>	<p>運営推進会議のおりに行政の方が参加して、事業所の現況把握をいただいている。「朝日村ケア会議」に出席して事業所の取組や要望について伝えるとともに、グループホームを理解し支援してもらえるような働きかけを行っている。</p>	<p>市町村は、介護保険上グループホーム事業の保険者として、また市民福祉を推進する地方自治の最前線の立場として、グループホーム事業の推進にとって重要な存在であり、今後の方向性について具体的な提案が求められる。今後更に、グループホームの実状やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築いていかれるよう望まれる。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に関する外部研修の参加を今後は徐々に行っていきたいと思います。</p> <p>朝礼時、職員会議時においては、議題として示しています、マニュアル等を用いての研修も行ってあります。</p>	<p>毎月の職員会議に身体拘束マニュアルを活用して研修を行うと共に朝礼時に唱和して職員間で共有し身体拘束をしないケアに取り組まれている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員の疲労やストレスが利用者様に悪い影響を及ぼすことがあるので、職員の業務負担の軽減を考え、ストレスがない職場環境を作ること、職員一丸となって取り組むことにより、利用者様に悪い影響が無いようにしている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>今まで学ぶ機会がなかったため今後、研修や勉強会を行っていきたいと思います。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所者(家人)には、契約書の内容を説明し質問にはきちんと時間をかけ納得して頂くまで答えるようにしている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入浴時、夜勤時は特に利用者様と一対一になる時間が取れるので、利用者様の意見や要望を聴き取る、また、このグループホームは面会の方が頻繁に来所するため、その都度、ご家族、利用者様の意見要望を聞き、内容を朝礼時やミーティング等の場において職員間で共有する、また、法人事務局にも伝え運営の参考にしている。</p>	<p>日頃の関わりの中より利用者の希望を聞き取るように努めるとともに、利用料を持ってきていただくなど、ご家族との接点を多くとるような配慮やご家族の意見の把握に努め、運営に反映されている。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>法人においての月1回の管理者会議、事業所での研修会、職員会議の場において、運営に関する話し合いの場を作っている。</p>	<p>職員会議の折の話し合いやリーダーと職員との良好な関係が構築されており、職員が自由に意見を言える雰囲気が作られている。管理者は現場職員の考えや意見を聞き、反映されている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内での管理者会議の中で職員に対する処遇や、働きやすい職場環境について理事長・副理事長を含めた各事業所管理者で意見を出し合い、より良い職場になるよう話し合う機会を設けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人の宅老所との合同研修会「機能回復訓練について」及び「介護技術研修」を行い、技術や利用者様に対しての接遇について学ぶ機会を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「朝日村地域ケア会議」や法人内研修の場において、事業所相互のサービスについて情報の交換を行い質の高いサービスを行えるようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前後にご本人・ご家族と十分に話し合いを行い、ホームでどのような生活をしていきたいかを確認し、ケアの参考にしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在、困っている事や、不安に思っている事も入居前後に、ご本人・ご家族より、聞き取りを行いサービスに繋ぐようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の個々の能力、趣味、生きがいを日々の生活の中から見出し、ホーム内での支援方法を考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話を重視し、利用者様本人の「声」を大切に し職員は利用者様との良好な関係づくりに努め ている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご家族の面会が頻繁にある為、介護計画の見 直し利用者様本人・ご家族と共に行いながら常 に同じ立場に立ち、利用者様本人の事を考えら れる関係を築く。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の訪問・面会はいつでも来ていただく事が 出来るようにしています。	昔馴染みの地域行事に参加して友人、知人に 会えるよう支援されている。なお、手紙、年賀状 などのやり取りや電話の取次ぎの支援を行って いる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	職員が利用者様同士の輪に入り、会話やレク リレーション等を行うようにしている(耳が遠い 方や認知症の症状により意思の伝達等困難な 場合がある為)お互いの思いや感じている事な どを伝える。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、移動した施設への訪問面会 やご家族との連絡も行っています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	前回の調査時に「つばやきノート」を作成し、日 頃のケアの中より得られた利用者様の言葉を 書きとめ思いや意向の把握を行い、職員会議、 朝礼時、カンファレンスの場において、職員間 で話し合い共有するよう努めている。	日常の関わりの中で一人ひとりの言動から分 かり合えること、支え、支えられることを日課と しており、利用者の希望や思いの把握に努め ている。なお「つばやきノート」を活用してケア サービスの質の向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に居宅サービスをご利用されていた方は担当ケアマネージャーより情報の提供をして頂き「場合によっては来所して頂き、ご本人の情報を聴き取る」また、ご家族・ご本人より聞き取りを行いより細かな情報の収集を行う。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の日々の様子や変化を職員は「表情や言動」を観察又は「つぶやきノート」を見ることによりとらえ、サービスにつなげる。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの意見や要望を聞き取り、ご本人の現在の状態とあわせ、利用者の担当職員を決め計画作成者と職員間で意見交換やモニタリング、カンファレンスを(毎月)行い、その利用者様が地域でその人らしく暮らし続ける為、必要な支援方法を盛り込んだ具体的内容の介護計画を作成している。	日常の関わりの中から利用者およびご家族の声を最大限に反映し、利用者の現状に踏まえた介護計画の作成に当たり、担当職員や計画作成者とアセスメントを含め職員間で意見交換やモニタリング、カンファレンス(毎月)を行い介護計画を作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日誌等に記入するだけでなく、職員会議や朝礼時に、口頭にて再確認をし(記入者と確認者のとらえ方が個々に違う事がある為)情報を共有した後に実践に移し、介護計画の見直しに役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人宅老所が近くにあることで、職員間の協力や、利用者様の行き来も行うような体制でいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学校の職場体験受入れ、保育園児童の訪問また、行事等のご家族、及び同一法人宅老所との協力、地域の方の訪問来所により、利用者様が生きがいになる様な暮らしを目指しています。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医療機関はもとより、ご本人、ご家族からの希望があれば、それ以外の医療機関にも受診が出来るようにしている、また、ご家族の都合により受診の際、付き添いが困難な方は職員が付き添い受診が出来るようにしている。</p>	<p>利用者、ご家族が希望されている医療機関での受診ができるよう支援されている。受診に際しご家族の都合により受診支援も行われている。結果は電話連絡を行っている。なお事業所の協力医療機関による利用者の健康管理も行われている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>近くに同一法人の在宅所がある為、所属の看護師に必要時・緊急時に応援要請をし、指示や場合によってはその場で処置を行う。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院のソーシャルワーカーとの連携を図り現状を把握し、退院後のご本人の受け入れ方法を考え、職員に伝え準備を行う。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>あらかじめ、ご家族と、医療機関と話し合いを行い終末期の対応方法を考え、職員の意見を聞きその時に備える。また、今後は、関係医療機関と話し合い、終末期に関する看取り介護の研修を行うようにする。</p>	<p>看取りにあたりご家族、医療機関等ケア関係者と話し合い、看取り時にはご家族にも泊まっていたいただき、利用者、ご家族が安心してサービスを利用できるような支援により看取りが行われたことを伺った。</p>	<p>看取りや終末期の対応として、「見取りの指針」や「同意書」を作成し、相互の了解事項を明確にしたい。重度化や終末期の利用者を支えるために、チームの連携、職員の力量、諸条件を備え、他の利用者への配慮した支援が求められる。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時には、職員緊急連絡網により、詳細な情報を伝達し場合によっては、同一法人の在宅所所属の看護師に応援要請を行う。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>昼間における避難訓練はもとより、夜間帯想定 の災害発生時の避難誘導訓練も職員一人づつ が行い、夜勤者一人体制の時でも対応できる よう消防署からの意見指導の下、随時訓練を 行っている。 災害時に備え非常食・飲料水・備品も準備を 行っている。</p>	<p>年間消防訓練計画表を作成して、初動訓練、 避難訓練、初期消火訓練、部分訓練、防災教 育等年4回開催して結果記録(反省点、ミーテ ィング)を作成し有事に備えている。朝日村地震 防災総合訓練実施状況及び今後の課題につ いて、実施状況(写真添付)を書面で残されて 今後の改善につなげている。なお、災害時地域 への連絡方法としてのサイレン使用について検 討されている旨を伺った。</p>	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>長く人生を送ってこられた、方々に対し個々の 人生や、生活歴等を配慮した声掛け、言葉使 いを行うよう、職員会議時や、法人内研修の場 においても接遇に関する話し合いを行っている。</p>	<p>職員会議の折に「心を開く介護の言葉」や「認 知症の人が求める5つの心理的ニーズ」につ いて勉強会を実施して利用者一人ひとりの人格 の尊重やプライバシーを損ねない対応につ いて配慮されている。</p>	
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己 決定できるように働きかけている</p>	<p>日々、利用者様ごとに、声掛け、自己表現が苦 手な利用者様は表情や行動等を観察しなが ら、なるべく、ご本人に沿った生活を送って頂く ようにしている。</p>		
38		<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な食事の時間は、やはり入所者が全員 そろっての食事が良いと考えております、その 他の日々の行動はご本人のペースにて過ごし ていただくようにしています。</p>		
39		<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している</p>	<p>着替えは自立されている方はご自身の思い通 りの服装に着替えて頂けますが、介護度が高く 身体機能が低下されている方は職員が声掛け を行い、洋服等は選んで頂き介助にて着替え をおこないます、また、昼夜のメリハリをつける 為に就寝時にはパジャマに着替えて頂く事を実 施しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事に関して一連の作業を通じた利用者様の力の発揮(食材の下ごしらえ味見等)の場を設け生きがいに繋がるようにしている、またメニューはなるべく季節感が出るようにしている、職員と一緒に食事をするにより会話もはずむ、お茶の準備や、後片付け、台拭き、食器の拭き取り等も行って頂いている、クリスマスや各種行事にカクテルを作れる方にボランティアとして参加して頂き簡単なパーティーも行っている。</p>	<p>希望献立システムにより、リーダーになった利用者や買い物に行き食材を購入して調理をされている。献立づくりや調理を職員が一方向的に進めるのではなく、利用者の力や希望を最大限に引き出し、満足感につなげるよう支援されている。春には山菜をとり、秋には山栗を拾い食材として使用して季節感、食欲、食べる動作を引き出すような献立の工夫をされている。</p>	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の摂取量や水分摂取量を個々毎日記録し摂取量が普段より著しく少ない利用者様に関しては、ご家族、ご本人と相談しながら、好きな食べ物等を聞き取り、なるべく、ご本人が食べやすいメニューを考えたり、栄養価が高い飲み物等で対応する。水分はこまめに摂取して頂き場合によっては飲みやすいスポーツ飲料等で対応する。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>3食毎回、口腔ケアを実施している、当事業所の計画作成担当者が歯科衛生士の資格保持者なので、口腔内のチェックは利用者様ごと随時行っている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>毎日、利用者様ごと24時間の排泄チェックの記録を行い、排泄パターン(時間)を確認し、なるべくトイレにて排泄を行って頂けるよう、職員は時間を確認しトイレまで誘導を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握して、失敗を防ぐため、兆候にあわせて前誘導を行ってトイレでの排泄や排泄の自立に向けて支援をされている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>運動をしたり、乳製品を多く摂って頂き、便秘の予防としている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日1人は、確実に入浴していると共に、職員の勤務によっては2人・3人の方の入浴にも対応している、利用者様には時間にとられることなく、ゆっくりと入浴をして頂いております。	週2回午前中に3人位づつ入浴支援を行っている。ゆず湯や入浴剤などを使い季節感が得られるよう支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一般的な生活は日中間に活動をして頂き、夜間は眠るというサイクルなので、当ホームでも、日中間利用者様には居室に留まる事が無いように声掛けを行い、なるべく意欲的・活動的な生活をして頂き夜間はゆっくりと休んで頂くようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬等は1ヶ所の引き出しに、各利用者様ごとに分け保管管理をしている。 また、薬の説明は医師から説明書を書いてもらい、職員に伝える。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、食事後の片付けは自立度が高い方に、お願いをして行って頂いたり、この事業所の周りには自然が沢山あるので、ご家族、職員と利用者様とで散策をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年末・年始・お盆等、世間一般的な長期のお休み時には、外出・外泊をされる方が多いです。また、ご本人希望での買い物や、ご家族との外出、外食時には「家での様子をノートに記録」して頂いております、普段の生活においても、天気が良い日は、施設前の広場にて、日光浴を行っています。	日当たりのよい事業所玄関前での日向ぼっこを利用者は大変楽しみにされている。地域行事(敬老会)での会食や回転ずし、買い物外出、深秋の平出遺跡公園等に出かけられている。今後の取組としてドライブを予定されていることを伺った。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金品等は持ち込まない事が原則ですが、もし、ご本人が所持しておられた場合、説明をし了解を得てから事務所内の金庫にて保管をさせていただき、ご家族に持ち帰って頂きます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙・贈り物は利用者様ごと頻繁にきます。利用者様はご家族に「誰かから手紙が来たから返事を出して」と伝えている様子です。また、友人・知人の方も、近隣の方だけでなく、遠方の方も、ご本人とお話をしに面会に来られます。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所には、利用者様が作られた作品等をなるべく飾りつけております、建物が広いため利用者様はお互い不快な思いや混乱を招くことなく過ごしております、玄関先に出れば、自然の景色を楽しむことができます。	共用空間には、季節を伝えるクリスマスツリーや思い出の写真、利用者が作られた味のある俳句が飾られ、全体的に殺風景ではなくほっと安らぐことができ温もりが得られるよう工夫されている。なお、居間の窓外に猿や鹿、親子熊などの散策を見る機会があり自然の営みを感じながら過ごされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	当グループホームには「畳」の大広間がありますので様々な場面で有効に活用し利用者様が思い思いに楽しくゆっくりと生活できるようにしております。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は広く収納も個々出来るようにしてあります。利用者様は、ご自分で、ご家族に「あれを持って来て」と様々な物を持ち込まれます、馴染みの品物等を持ち込むことにより、自宅での生活に近づく事ができる。過去には仏壇を持ち込まれた方もいましたし、利用者様の希望により居室の交換もしております。	ご家族と話し合いのもと利用者の馴染みの物(タンス、テレビ、衣類、手作り作品、家族写真など)を持ち込み、活かしてその人らしく過ごせる部屋になるよう工夫されている。事業所におかれても利用者の思いに柔軟に対応をされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は広く居室からの移動も歩いて来られる方が多いですが、転倒の危険性も考えられます。事務所がちょうど廊下を見渡せる位置にありますのでそこから移動の様子を見る事が出来、また場合により、誘導の指示も職員に伝えます。		

目標達成計画

作成日:平成27年3月20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	看取りや終末期に対する支援について。	チームの連携強化に努める。	職員の力量もあるが、常に看取りや終末期に向けた話し合いを行う。(月1回のミーティングに取り入れる)	12ヶ月
2	4	利用者様とのコミュニケーションのとり方。	コミュニケーションは、言語だけではなく、利用者様との結びつきを大事にする。	日頃の利用者様の様子を観察しながら、結びつきを見つけ、安心をしていただく。	12ヶ月
3	5			距離感(物理的、心理的)をもつ。	12ヶ月
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。